

本音で語る内定者Cafe2007

「本音で語る内定者Cafe2007」が10月20日、生田キャンパスで開催され、4年次生15人が講師となり、「就活」にリンクする九つのブースを設け、それぞれの体験談を語った＝写真。

参加者がいつでも自由に入出入りできるこのプログラムは例年、体験談を語る4年次生、参加した3年次生ともに満足度が高い。また、学生たちが「自分たちの特別の居場所」、「新たなコミュニティ」を作り出し、年々魅力的なプログラムに発展してきている。

3年次生の参加者80人からは、「生(なま)の情報が聞け、不安が解消された」、「気軽にまじめな質問をできる雰囲気がよかった」といった感想が寄せられた。



内定への道

企業選びとはどのようにするの？

今月号から来年5月号までの全6回(3月は休載)で、就職活動の悩みや、その時々タイムリーな話題を取り上げ、皆さんの「希望の就職」がかなうよう応援していきます。

【ポイント1】仕事をする視点で！

企業選択のとき、まずは日常生活で利用している企業に興味を持つ人が多い。サービスを受ける側の消費者としては、嫌なこと、つらいことはない。一方、モノやサービスを提供する側としての企業は、180度見方が違う。どうしたら、製品やサービスを購入してもらうことができるのか。毎日が顧客との真剣勝負だ。社会人になったらその役割を皆さんが担う。だからこそ、社員一人ひとりがモノやサービスを提供するまでに行う具体的な仕事への理解を深めよう。単なるあこがれや興味だけでは仕事は務まらない。インターネットだけでなく、「働いている人に話を聞く」、「働く現場を見る」ことが重要だ。

【ポイント2】自分のタイプとのすり合わせを！

仕事内容を理解したら、次にその仕事に必要な力はどのようなものかを見つけ出し、自己分析で明確化した「強み・特徴」が生かせるか考えてみる。どんなに有名な企業や楽しそうな仕事でも、自分を生かせなければ意味がない。自分のタイプと企業のタイプをすり合わせてみよう。一般的に消費者に近く、安価な商品を扱っている企業は、移り変わりの激しい消費動向についていくため、それに素早く対応できる人、自分からドンドン行動していく人を求める。一方、法人に対して営業を行う企業(B to B)は、取扱商品も高額であることが多く、高度な専門知識が要求されるので、仕事の仕方もチームで行うじっくり型だ。自分の能力を生かせるのはどちらのタイプの企業なのか。それによっても選ぶ企業は変わるのだ。

★「業界・企業研究講座」開催中！

新たな世界の扉をたたいてみよう。日程、その他詳細はホームページで確認を(就職課)。

HEIB講座

自分を知ることが大切

「メイクアップ講座」開講

女子学生対象のHEIB講座では、自分らしさを表現することを目的とする「メイクアップ講座」を11月6日、生田キャンパスで開いた＝写真。

講師は、HEIB講座OGで、現在ヘアメイクアップアーティストとして活躍する鈴木理絵さん(平12商＝ノニカ・ジャパン)。「講座で得た商品学やマーケティングの観点が、今の仕事に生かされている。皆さんも好きなことを探して生き生きとした女性になってほしい」とエールを送った鈴木さんは、まず自分の顔を知り、美しい顔のバランス基準を基に顔立ちの特徴をつかむことが大切であり、足りないところを補い、余分なところは消す「修正」と「錯覚」がメイクアップの基本と解説した。学生たちは定規と鏡を手に、自分の顔を分析。それぞれの修正ポイントや、なりたいイメージにあわせたポイントメイクも学んだ。



実際にメイクしてもらった学生代表の若松里美さん(商3)は、「自分の持っているメイク道具でこんなに印象が変わるなんて驚きました」と笑顔を見せた。

新会員募集ガイダンス

※現1、2年次対象に来年度新会員募集ガイダンスを11/29(木)生田979号教室で12時20分から行います。

会員以外の学生(男女問わず)も参加できる公開講座を生田キャンパスで開催します。11/29(木)「ヒコーキと航空会社(仮)」、12/4(火)「コンセプトを形にする! 製品開発と広告戦略～ニコンデジタルカメラのケース」。詳細はエクステンションセンター掲示板をご覧ください。

保健講座「料理教室」

一人暮らしの食生活充実に

身近な食材を使って一人暮らしの食生活を充実させるための保健講座「料理教室」が10月30日、生田キャンパス近くの東京ガス料理教室で行われた。

昨年好評だったこの企画に今年は15人が4班に分かれて「ブリの竜田揚げ」「豚汁」「ほうれん草の胡麻酢和え」にチャレンジ。魚のおろし方に苦労しながらも無事完成し、試食を行った。「魚料理もけっこう簡単にできることがわかった」、「豚汁は野菜がたくさんとれるのでこれから寒い時、作ろうと思う」といった声が聞かれ、みな大満足の様子だった。



▲魚料理にチャレンジ



▲「おいしくできました！」笑顔の参加者たち



▲家でもチャレンジしてみよう！

◀New Ground -新しい見方<19>▶

「目標と努力」(ジャーナリズム研究会)

甲斐 将義 (文1・ジャーナリズム研究会)

「E判定! ?…ヤバイ」。センターの模擬試験の結果だ。「お前どこの大学行くの?」。追い打ちをかけるように友達が話しかけてくる。「おれ? ハッハッハ…知らん」。笑って取りつくろうが、内心は非常に落ち込んでいる。私も友達に聞き返す。「お前の結果どうだった?」「うーん、最悪だった。B判定だもんな」。この友達の言葉を聞いたとき、苦笑いするしかなかった。私はこのような会話を経て、ようやく進学という目標に向けて努力し始めた。



▲スポーツも学業も目標に向かって(鳳祭で)

1年が経ち、結果「大学生」として過ごしている。今では大学生活にも一人暮らしにも慣れ、順調である。それなりに勉強もこなし、サークル活動にも参加している。ところが、どうだろうか。1年前と比較すると、物足りなさを感じる。当時は、苦勞することはあってもそのような感じることはなかった。このような感覚の原因は何なのか。

以前、健康科学論の授業で「実存的空虚」という言葉を学んだ。これは自分の目標をある時に実現させてしまうと、その後から空虚感を感じてしまうというものだ。原因はこれに関係があると思う。私は、進学という目標を実現させたことで「目標に向けて努力をする」ということが欠け、一種の「実存的空虚」を感じているのではないだろうか。このことは私に限ったことではないと思う。

今はもう11月だ。私は今、何を目標にどんな努力をしているだろうか。ほかの人は、何を目標にどんな努力をしているのだろうか。「目標に向けて努力をする」ということは、将来の自分にとって、マイナス面よりも充実感を含めてプラス面につながることの方が多いのではないだろうか。

校友・ライフセーバー

本多さんと中曽根さん 全日本で大活躍

10月6、7の両日、片瀬西浜海岸で開催された第33回全日本ライフセービング選手権で、校友の本多辰也さん(平12商)と中曽根麻世さん(平17経営)が大活躍。2人とも来年の世界選手権ドイツ大会出場への大きな一歩をしるした。

台風の影響で高波が押し寄せる悪天候だったが、本多さんは男子のビーチスプリントで優勝し、昨年に続き2連覇、さらにビーチフラッグスでも準優勝だった。「世界大会出場という大きな目標に向けて弾みがついた。来シーズンも全力投球します」と意欲を燃やしている。

中曽根さんは女子のアイアンウーマン優勝でこの種目3連覇。ボードレースでは準優勝。「日本での1位は、世界で戦う第1歩。スタートラインに着いたつもりでがんばります」と話している。



▲“激闘”の本多さん(右)



▲3連覇に笑顔の中曽根さん

《マンガ》

ボク、10号館

(漫画研究同好会・ミネス 作)

